



学校だより

# わかまつ

鈴鹿市立若松小学校

No. 21

令和7年8月20日

㊦くわく ㊦がやく子 ㊦なび合い ㊦なぐる子

## ☆4・5年「みえスタディ・チェック」の結果について

県との平均正答率(%)の比較

	算数	国語	理科
4年生	▼9.4	▼4.1	
5年生	6.9	▼0.3	3.7

4年生と5年生も1学期に県の「みえスタディ・チェック」に取り

組みました。1学期末の「あゆみわたし」の時に、個別の結果をお渡し  
したものです。今回は、学年の傾向をお知らせします。

4年生の算数科の領域ごとの結果を見ると、「数と計算」では、6  
問のうち、県と比較して+8.57から-13.9まで得意と不得意の問

題で差が見られました。今後も、授業の中で、九九や足し算・引き算といった基礎基本の計算方法の確認を  
行いますが、家庭学習の時間や一人一台端末を使った計算練習の復習を通して定着を図っていきたく  
思います。ご協力ください。また「データ活用」では県と比較してひらきがありました。これは、6年生と同じく、  
国語科の「読む」の領域と関係がありそうです。何が書かれているのかをじっくりと「読み取る力」の育成と  
読書に親しむ習慣に注力していきたいとおもいます。

5年生の算数科の領域ごとの結果を見ると、「図形」は県を上回っていましたが、「データ活用」では  
+36.2から-4.2、「数と計算」では+6.3から-11.9まで差がみられました。国語科の領域ごとの結果で  
は、「話す・聞く」で-0.3と-1.9とやや低く、「読む」は-9.6と-12.1でした。「知識・技能」は+18.2か  
ら-23.9の問題もありました。5年生においても、じっくりと「読み取る力」を育成しながら、落ち着いて内容  
を聞き取る力も育成していきたいとおもいます。

上記は、学力についての傾向と、これからの取組についてでした。鈴鹿市では、学力の向上とあ  
わせて、「非認知能力の育成」に取り組んでいます。8月8日(金)に皇學館大学の渡邊賢二先生  
による研修会「こどもの非認知能力を育むために」がありました。教職員向けの話ですが、  
保護者の皆様にも知っておいていただくとよいと思われることを一部紹介させていただきます。

○非認知能力とは

認知能力は「知識・技能」、「思考力・判断力」、「表現力」など。

非認知能力は、「自己に関する能力」と「社会性・人と関わる能力」である。

非認知能力が高いと・高い成果をあげて、幸せを感じながら生活できる可能性が高まる。

中学校時代には、非認知能力が認知能力の発達を促進する可能性が高い。

小学校の六年間で脳が発達し中学校で完成するので、中学生は論理的思考ができるようになる。

このことから、社会が急速に変化する時代を生き抜くために、非認知能力と変化に対応する力が重要。

○非認知能力の「自己に関する能力」の紹介

① 自己肯定感 = 自己効力感 + 自己受容

自己肯定感は、自己受容(今の自分でよいと安心して生きていけると思える力)を基に、自己効力が形成されることで生まれる力。「できなかったらダメね」など条件付きの愛情は、自己肯定感がゆらぐのでよくない。重要な他者(保護者)からの承認が励みになる。

幼児期から失敗が増える。思春期になると自分を見る目が厳しくなる。そこで「強みを伸ばす」ことが大切となる。

② 自律性 ③自己理解・メタ認知力

④ やり抜く力 (Grit) ・・困難・失敗・競合目標にも関わらず、長期目標に対して示す「情熱」「粘り強さ」  
※困難や失敗を成長や気づきのチャンス」と考える学級。「達成したい」という気持ちを大切にします。

⑤ 自制心(自己制御・自己コントロール) ・・生活をしていくうえで最大の強みとなる

※学校では、SST や SEL(社会性と情動の学習)を取り入れていく

※家庭でも学校でも、姿勢を正すこと、日常生活で5分前には行動するといったことを守らせるとよい。

い。ルールを守る環境がよい影響を与える。

○非認知能力の「社会性・人と関わる能力」の紹介

①協調性 ②道徳性・倫理観 ③規範意識・公共性 ④共感性・思いやり

※ 非認知能力は、環境によって変化する部分が多い

○ 学校では「ネガティブな対人葛藤」の経験や「自分で設定した目標の達成」の経験が必要

そこで、学校では、SST(ソーシャルスキルトレーニング)のうち、「話す」「聴く」「質問する」「あたたかい言葉がけをする」「ありがとう、ごめんなさいを言う」といった日常的なものが大切です。

若松小学校でも「自分の気持ちを話す」「友だちの話をよく聴く」「わからないことは質問する」「あたたかい言葉を使う」「ありがとう や ごめんなさい を言う」といったことに取り組んでいます。ご家庭でも、上の5つのトレーニングをぜひ意識して実行してみてください。また、各クラスで、安心感や所属感を基に、わかる、できる、学びあえる授業に取り組んでいます。

○ 信頼感

I(わたし)のアイメッセージで伝える。「先生はどう思っているのか」を伝えることが、こどもとの信頼感につながる。その時に、実際の行動をもとにタイミングを逃さずにほめることが大切。例えば、「机の上をかたづけはじめたら」・・やり始めると同時に視線を合わせてほめるなどです。これはご家庭でも一緒と思われま。

※ これらの非認知能力の育成のための手だてなどは、読書や学習習慣の定着にも活用できます。

9月1日(月)から、こどもたち一人ひとりが活躍できますよう・・職員一同力を合わせていきます。

2学期のスタートに向けて、引き続き、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いします。